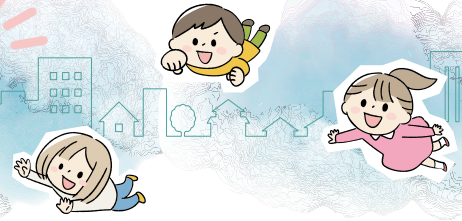




まちの話題



4月22日[Wed]

「田んぼダム用せき板」の贈呈式が行われました



▲せき板を手に記念写真を撮る伊藤さん（前列中央左）、笠原さん（前列中央右）と「前田地域資源保全会」、「山犬原を守る会」、「佐賀県農地・水多面的機能推進協議会」のみなさん

子どもたちが地域の安全を願って描いた「田んぼダム用せき板」の贈呈式が多久市役所で行われました。「田んぼダム」とは水田の排水口に「せき板」を設置し、雨水の貯水量を一時的に増やし、ゆるやかに排水させることで、下流域の水害を軽減する取り組みです。

贈呈式では、せき板を制作した児童を代表して東原彦倉中央校5年生の笠原里奈さんと伊藤璃子さんが「おいしいお米を作ってください」と挨拶され、田んぼを管理する「前田地域資源保全会」と「山犬原を守る会」の代表にせき板を手渡しました。

せき板を受け取った前田地域資源保全会の小川克徳さんは「ありがとうございます。子どもたちが作ってくれたせき板を使ってしっかりと管理したい」と話されました。

県内で田んぼダムに取り組む佐賀県農地・水多面的機能推進協議会の高田俊行幹事長は「水田を管理されているみなさんのご協力があってこそできる取り組み。下流域の人にぜひ田んぼダムの取り組みを知って欲しい」と話されました。



5月2日[Sat]

多久を知る資料室「タクシル」オープン！



▲多久市郷土資料館の藤井館長（左）から説明を受けながら資料室内を見て回る関係者のみなさん

多久市が誇る、時代小説家滝口康彦氏と元多久市立図書館司書で郷土資料などの保存・活用に尽力された細川章氏。二人の貴重な寄贈資料を展示する「多久を知る資料室（タクシル）」が開館し、記念のオープニングセレモニーを執り行いました。

セレモニーで石田俊二教育長は「お二人が残したものは時代の証であり、地域文化を継承する貴重な資料です。先人の軌跡を肌で感じてほしい」と挨拶しました。

館内には、滝口氏の直筆原稿や愛用品、細川氏が収集した膨大な歴史史料やスクラップ帳など、計約1万3千点もの貴重な資料が展示されています。

場所・開館日・予約方法については、市ホームページをご確認ください。



5月7日[Thu]

小城警察署と多久ケーブルメディアが防犯協定を締結



▲協定書を手にする江副署長（左）と西川社長（右）

小城警察署と株式会社多久ケーブルメディアは、犯罪の起きにくい安全・安心なまちづくりに向けた防犯協定を締結されました。

今回の協定では、同社が提供するAI防犯カメラ「みまもりあんしんAIカメラ」を活用した地域防犯ネットワークの構築や、事業活動中の「ながら防犯」、特殊詐欺や交通事故の啓発に協力します。カメラには両者連名の防犯ステッカーが貼付され、抑止効果を高めます。

締結式で多久ケーブルメディアの西川潤一社長は「市民の平和を守る一助になりたい」と語られ、小城警察署の江副勝彦署長は「地域防犯の大きな力になる」と期待を寄せられました。

